

「デジタルの嵐」

(2011)

2003年、60歳での定年と同時に設計事務所を立ち上げたが、「の機会に世のデジタル化に遅れを取るまいと、家庭内ＩＴ化を必死に追求した。それまで会社では、肩書きと口先と赤鉛筆だけを頼りの仕事で、女子や若い社員の力を借りながら仕事をするアナログおじさんに安住していたお蔭で、自分の中のデジタル化がすっかり後れを取っていた。

まず「光回線」を導入した。これにより今までの固定電話の基本料・通話料が一挙に安くなり、パソコンのネット環境も向上した。同時に、FAX機には別個の専用ナンバーを付加し（追加番号・複数チャネル料・500円／月）、このナンバーをFAXと妻の専用の電話として利用している。一方今迄のナンバーは全て僕の携帯電話に転送（ボイスマーク使用料500円／月）するようにしたお蔭でどんな所へ居ても、時にはどんな遠くの旅先でも、待たせる事無く携帯電話で受信できるようになった。ついでながらパソコンへのメールも携帯電話にワープするようになつた。設定したお蔭で、安心して着信の状況をすぐに把握ができる。

さて「ＴＶ・録画機」だが、ＴＶはいつの間にかＢＳデジタルの時代になつており、たまたま親しくしていたＴＶ屋さんが「いい出物がありますが・・」と知させてくれて、二人で1台ずつ新機種を購入した。今でこそ当たり前となつたが「ＢＳデジタル放送」の受信できるＴＶで、テレビっ子の僕には垂涎の代物であった。その頃から録画の形式もＨＤ

DやDVへの録画へと替わりつつあり、新しい録画機も購入し、今まで撮り貯めていたVHS画像をDVDへ変換した。これでパソコンとのコネクションが完成した。後日談になるがこの僅か7年後、世は既に「地デジ」時代に突入し、又液晶画面の飛躍的な進歩により今までの巨像の様なTVは短い命を終えた。それよりも頭に来るのは地デジ時代への突入と同時に「録画機」が一挙にブルーレイ方式に変わったことだ。余りにも早い技術の変革に驚くほか無い。

「パソコン」は5代目で、W・7に昇格し、画面も大きく・美しくなった。同時にスキヤナーを導入し、長い間の懸案だった数百本のフィルム写真のネガのデジタル化を行った。銀塩写真フィルムとデジタル写真時代の文字通りの歴史の狭間を我々の年代は良くなき伸びたものだ。

「携帯」はこの頃からカメラ付きが主流になりつつあり、2代目の携帯はこのカメラ付き（150万画素）を手に入れた。当時とすれば最新鋭であったが、年を追う毎に、カメラの性能も300万～500万画素と飛躍的に進歩し続けていた。あれから7年、そんな焦りを日々感じていた折、ワンセグTVも見られる機種も出始め、3台目に買い替えた。カメラは何と1320万画素、連写、動画機能もあり、ワンセグTVも見られ、携帯をかざすだけで支払いの出来る電子マネーへの挑戦も成功した。

「デジカメ」は96年のカシオQV10（30万画素）、2年後のフジ

ファインピックス（150万画素）に始まり、カメラ好きの僕は新機種が発売される度に買い続け、画像の美しさと加工・保存の利便さにすっかり堪能せてもらった。

あれから7年、FAX機が壊れた、元々、感熱ロール紙にプリントする玩具のような機械だったから7年間も良く耐えてくれたと感謝している、買い替えとして次は同じメーカーだが「FAX複合機」（FAX、コピー、プリンター、スキャナー）を導入した。今迄は印刷にはパソコンのプリンター（PM2200）を使用していたが、A3の印刷ならともかく葉書～A4の小さな・少量の印刷までわざわざこのプリンターのスイッチを入れては大げさにやっていたのが、この複合機にパソコンを常時直結しているので気軽にA4迄の印刷なら即座に実行できる。何よりもコピーが何時でも気軽にこれると言うのが良い。